

◆幡街芸者と本街芸者

かつて八幡町と本町はそれぞれ幡街、本街とよばれる花街で、盛岡芸者は幡街芸者と本街芸者に分かれていました。幡街の料亭は主に商家の旦那衆が、官庁街の本街の料亭は主に役人や政治家が利用していたことから、幡街芸者と本街芸者は気質も違い、ともに芸を競い合っていたと言われています。ちなみに明治44年正月の新聞広告によると、幡街芸者は54人、本街芸者は41人で、料亭の数は河内地区で11軒、河北地区で19軒あったようです。八幡町には遊郭もありましたが、盛岡芸者はそこでの遊女や酌婦とは一線を画し、身持ちが固く品格が高いということでした。

それぞれの街には、芸者を登録管理する事務所

そうです。函番は宴席への手配のほか、料金(玉代)の精算、お稽古事や「温習会」とよばれる芸の発表会の世話なども取り仕切っていました。

◆朝から夕方まで稽古に励む

盛岡は昔から芸事が盛んで、特に八幡町や本町には料亭のほか、長唄や踊りなどを教えてくれる師匠の家もありました。そこで八幡町や本町で生まれた女の子は、子どもの頃から自然にそれらのお稽古に通って芸を習得。こうして「半玉」「玉代が半分」の意という芸者の卵の時期を経て、「自前芸者」になったそうです。

ところがひとくちにお稽古事といっても、長唄、踊り、常磐津、鳴り物三味線、笛、太鼓、鼓などの総称と何種類もあります。そのため芸者を目指す子どもたちの多くは、朝から夕方までお稽古の「しご」をしていたとか。また、数え年の6歳の6月6日にお稽古事を始めると上達する、という故事にしがたがって習い始めた子どもも多かったようです。



岩手時事新聞付録より

「函番」があり、芸者はここを通じて宴席に派遣されました。実はこの事務所は一般的に「検番」または「見番」といわれていましたが、ここには登録されている芸者たちの三味線が置かれ、指名された芸者の三味線を料亭に届ける役目もあったことから、盛岡では三味線の「函(箱)」をとって函番といわれていた

こうしたお稽古は芸者になってからも続けられましたが、その芸にさらに磨きがかかったのは、常磐津林中との出会いでした。林中は明治25年から28年にかけて盛岡に滞在。その間、盛岡芸者たちは常磐津の稽古をつけてもらい、その縁で昭和14年から、芸術院会員で人間国宝の三世常磐津文字兵衛や四代目といった邦楽界の第一人者にも盛岡に出稽古に来てもらっています。そうした恵まれた環境と芸者衆の日々の努力が、「盛岡は関東以北一の芸どころ」という評価につながっていったのです。

◆若柳力代を踊りの師匠に迎えて

その林中の口添えによって明治31年に名古屋から来盛し、盛岡芸者に踊りを教えるようになったのが、初代若柳力代です。もともと歌舞伎役者だった力代は日本舞踊のほか芝居も教えたので、大正2年に完成した旧盛岡劇場での温習会では、日本舞踊ではなく歌舞伎芝居が披露された時代もありました。ちなみに現在現役の盛岡芸者は5人ですが、

谷村文化センターでの温習会





# 【盛岡芸者・豆知識】

芸者さんについてのあれやこれや。ちよつとした物知りネタをご紹介します。



## 料金はどうなの？

芸者をあげて遊ぶための料金のことを、花代または玉代と言います。昔、芸者の卵を「半玉」と言いましたが、それは「玉代が半分の半人前」の意味から付けられました。

また花代のことを「線香代」と言うこともあります。それは芸者がお座敷に上がっている時間を線香で計り、「線香1本で●円」と決まっていたから

です。函番があった頃には、芸者に声がかかると函番に線香を立て、その火が消えるとき使いの男性が料亭に芸者を迎えに行きました。函番がなくなつてからも、お座敷で線香を立てて時間を計っていた粋な旦那衆もいたそうです。

ちなみに戦後は時間制になつたものあまり厳密ではなく、勢いで朝まで遊ぶこともあったとか。現在はきつちり時間とそれに合わせた料金が決められています。

## 名前はどいつで決めるの？

昔は踊りや常盤津など邦楽の世界で名跡を継ぐこともあったので、本名以外を名乗ることもありましたが、戦後は本名で統一されました。それでも現在の5人の芸者さんのように、漢字をひらがなに変えて名乗るケースが多いようです。

## お座敷での心得は？

お客様と話をする時には、基本的に聞き役。また、先輩の芸者さんがお客様と話をしている時には邪魔をしない、というルールもありました。

さらに、お酒を飲んでも食べ物は一切口にしないのが基本。たとえお客様に「一緒に食べよう」と言われても、先輩の芸者さんが手を付けるまで食べてはいけませんでした。

## 「粋なお客様」は？

昔は、常盤津や清元を習っていてその一部を座敷で披露する旦那衆が少なくなく、「粋なお客様」の代表でした。

現代ではそんなお客はなかなかないようですが、昔も今も変わらず人気があるのは、話題が豊富な人だとか。

## 着物やかつらに決まりはあるの？

正月には正装として紋付きの着物を着ますが、それ以外のふだんのお座敷では季節や気候に合わせた着物を着ます。例えば、6月は二重、7〜8月には絶、9月から再び一重、といった具合です。もちろん着物はすべて自前。それだけ買えるほど収入が多い時代があったわけです。

また髪型は、昔は自分の髪を使って結っていましたが、戦後になるとかつらも使うようになりまし。これも昭和30年代で30〜40万円もしたという高級品でしたが、今も現役の芸者衆も当時は一人で何個も持っていたそうです。

## お座敷遊びってどんなふうなの？

現代のジャンケンやハンカチ落としのような、誰でもその場で簡単にできる遊びがほとんど。共通するのは、負けたらお酒を飲むこと。そのため芸者さんの中にはお酒が強い人も多いです。

